

令和7年度第1回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年10月31日（金）午後2時～午後3時30分

2 場 所 和東町体験交流センター 会議室

3 出席者 広域連合長 山本 篤志
副広域連合長 馬場 正実
副広域連合長 平沼 和彦
教育長職務代理者 石橋 常男
教育委員 村田 年宏
教育委員 谷本 一榮
教育委員 鈴木 慶一

4 傍聴人 なし

5 議 事

(1) 開会

司 会 田中事務局長

(2) 広域連合長挨拶 山本広域連合長

〔相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条により、広域連合長が会議の議長として、以下の議事について執行を行った。〕

(3) 議 題

①少子化を乗り越える教育の工夫について

〔教育長職務代理者から資料に基づき説明があり、意見交換を行った。〕

○教育長職務代理者

少子化になりつつある地域をどのように乗り越えるかについて、和歌山大学が中心となって執筆された論文で与謝野町の取組事例がある。

2006年に町合併があり、加悦町、岩滝町及び野田川町が合併して与謝野町になっている。2006年、与謝野町の人口が約2万5千人、現在の人口が約1万7千人。10年後の人口は、1万5千人を下回るので、与謝野町が取り組んでいる少子化対策の状況が論文に掲載されている。

府立高等学校が、地域で地域子ども達を育てるという考え方で、高等学校をトップに据えたピラミッド型の取組であり、数年経過している。高校生が小学校に出向いて、勉強でつまづいている部分を子ども達の横に寄り添って家庭教師のように補習するなど高等学校や小中学校を巻き込んだ授業や取組を行っている。

丹後地域では、子ども達は高等学校までは在住するが、大学進学は東京方面へ行くケースが多く、丹後地域に戻ってこない。人口減少が進んでいる地域なので、小中学校で地域愛を学習し、転出しても地域に戻ってくることを基本にして、様々な行事に取り組んでいる。与謝野町としては、町ぐるみで地域に戻ってくるという想定の下で地域の子ども達を育てる。

行政が主体となり、コーディネーターという連携役を雇用して、高等学校と小中学校の義務教育課程を連携させている。その連携については、行政の仕事として困難であるが、行政が主体となって高等学校を頂点として小中学校の児童生徒を取り込む形態を作っている。

<主な質疑・意見交換>

○副連合長

小学校及び中学校の所管は市町村教育委員会、高等学校の所管は府教育委員会であるが、本件連携の主体は府教育委員会か。

○教育長職務代理者

行政と一緒にあって、高等学校が取り組んでいる。地域の高等学校へ進学してほしいという考えを持っている。与謝野町の近隣には、峰山高等学校又は宮津高等学校があるが、本件連携の取組を行って、去年度は中学校卒業生の3、4割程度がそれらの高等学校に進学しているが、全ての卒業生がそれらの高等学校へ進学している状況ではない。

○教育委員

行政が、与謝野町など様々なところへ行って手探りしながら研究して、それを検討していくことが望ましいと思う。各家庭で進学はそれぞれ異なるので、様々な居場所づくりを確保し、地域を盛り上げるのが魅力ある子育てではないかと思う。

○広域連合長

相楽東部にとっては、歴史的にも一番近い高等学校が木津高等学校であり、そのつながりによって地元意識が育まれるのではないかと感じた。

○教育委員

少子化を乗り越える教育の工夫については、避けられない全国的な課題。我が国の人口減少をどのように乗り越えていくのかについては、思い切ったことをしない限り難しいのではないかと。予算も必要であり、地域を活性化しようと思えば、基幹産業、情報、教育の3本柱が必要。

これまで小々連携、小中連携、中々連携など相楽東部広域連合ならではの教育を行ってきたが、それを総括する必要があると思う。連合教育の基本方針をはじめ、教育のあり方、小々連携の効果について、各学校の教師や校長の考えを総括して、どのように課題解決していくのかということが学校教育の基本と思う。我々も支援しながら共にやっていき、組織として運営することが大事。それが、最終的には子どもの将来につながっていくと思う。地域学校協働本部、社会教育などの取組はよくできているので、継続・発展させていくことが大事。

○教育長職務代理者

小々連携や中々連携は、適度に行われて効果があったが、小中連携の効果は小さいのではないかと思う。時間的・距離的にも大変だったので、今年度は小中連携を実施していない。実施して、効果があった部分については継続し、効果がなかった部分については見直したらよいと思う。いつも同じペースで連携ができるということでもなく、距離的・時間的な問題が付随するので、それらも勘案しながら効果的で適度な回数が必要と思う。

○教育委員

初めて小中連携を実施した際、素敵なお話をされたと思っていた。広域連合の良さがなくなったのは少し寂しい。広域連合の中で小中連携があってもよいと思う。

○教育委員

例えば、小々連携の場合、1時間の授業をするなら2時間は必要。2時間目と3時間目を使って、1時間45分の授業をする場合、どのような授業をするかについて、教師が事前協議する必要があり、多大な時間を要する。子どものためになるという意欲があれば、よい効果の取組に変っていくと思う。

○教育委員

少子化という問題は、親の転出も影響していると思う。住みよい地域をつくるということは、全国的な行政の目標。転出しても戻りたいという魅力的なまちづくりをするということが、全てにつながっていくと思う。まずは、大人の心を掴まないと、子どもが更に減少するかもしれない。地域全体で力を入れていくのは大事。

児童生徒数が少ないので、縦割りで6年生が1年生までの面倒を見るが、6年生が卒業すると、1年生も一緒に悲しむという連合の教育は素晴らしいと思う。教育とは、そういうところだと思うので、特に魅力的なまちづくりをして、それを伝えていくことが大事。

○広域連合長

子ども達が大人になっても「戻ってきたい」、「住み続けたい」という思いを持つためには、子どもの頃に楽しい思い出を多く作れるかどうかが非常に重要。児童生徒数の減少は、大人の事情が大きいのではないかと思う。

○教育長職務代理者

児童生徒数の推移については、現在、笠置中学校42名、和東中学校55名となっているが、5年後の令和12年度になると、笠置中学校41名、和東中学校40名となり、児童生徒数が逆転しているが、何が原因と考えられるか。

○教育委員

移住された世帯も考えられる。

○副連合長

子ども3、4人の移住世帯もいる。5年後の令和12年から児童生徒数が減少していくことが想定されるので、移住定住に力を入れていきたいと思う。小中学生あてアンケート調査すると、交通が不便、コンビニがない、中学校卒業したら転出するなどの回答があった。

②教育とまちづくりについて

〔教育長職務代理者から資料に基づき説明があり、意見交換を行った。〕

○教育長職務代理者

与謝野町は兵庫県の県境にあり、山を隔てて兵庫県に入ると豊岡市。豊岡市には、日本で初めて芸術専門大学校が出来ており、演出家の平田オリザ氏が学長。豊岡市も人口減少を食い止めるため、兵庫県が豊岡市に初めて大学誘致したところ、芸術関係の演出家や俳優になりたい人達が全国から集まり、競争率4倍であると聞いた。消滅すると言われた豊岡市が、大学誘致によって徐々に少子化の歯止めとなっている。

<主な質疑・意見交換>

○副連合長

徳島県神山町で高専を作った事例がある。廃校になった中学校を高専に作り替えて、授業料は無料。神山町長が、全国の企業から100億円の寄付を募って、その運用費用で授業料を賄っている。坂本龍一氏が校歌を作曲しており、インパクトがある。無料で全寮制なので、全国から若者が集まる。思い切ったことをしないと、人は集められないと思う。

○副連合長

学校を作れば、若者が集まって人口減少を止められるのか。町に賑わいが出ると思うが、教育委員が言われたように、転出しなくても子育てできるまちづくりを考える必要がある。

○教育委員

若者が地域に定住したい際、近くに働く場や魅力があればよい。和束町も南山城村も宇治茶関連で働く場はあるが、笠置町はそのような場が少ないと思う。

○副連合長

親の近所に自宅を建てるのも選択肢であり、親が孫の子守りをするのも生きがいだと思う。

○教育委員

転出は、職業の都合もあると思うが、相楽東部は子育てしやすい。医療費は無料、修学旅行や社会見学も無料、茶源郷ポイントなども大きい。少ない人口でも、3町村それぞれに魅力はある。

○副連合長

田畑の中で子どもを育てたいという移住者もいる。

○教育長職務代理者

昔の与謝野町は、丹後ちりめんが潤ったが、繊維業が衰えて、若者の働く場が少なく、与謝野町を出ていかざるを得ない状況。相楽東部は働く場が遠いと言われるが、まだ恵まれていると思う。

○教育委員

畑作業中の大人達と一緒に子どもを遊ばせたい、情操教育を体験させたいという親もいる。

○広域連合長

3町村では、人とのつながりや温かさが感じられることは非常に大きな魅力であり、それを知ってもらうことは必要。様々な価値観があると思うが、3町村の魅力を感じられる方も存在するので、町の魅力を感じてほしい。

(4) 開会

○広域連合長

町の中で子ども達の声が聞こえるということが最も大事。本日の幅広い議論を踏まえて、相楽東部広域連合、3町村等が連携して引き続きそれぞれ尽力いただきたい。